

## 第10期（2025年度）事業報告

### 1. 理事会履歴

#### 決議事項

2025年11月6日臨時理事会(メール)に旅費規程改定案(第2版)を提案し、11月13日に可決されました。改定の内容は、旅費規程(第1版)が、昨今の宿泊費の高騰等により実態に即していない内容となっていたため、以下について改定致しました。

- ・宿泊費用の目安額の見直し
- ・SSCI-Netの年間疫学調査結果の研究発表を目的とした出張に対する旅費支給の明文化

#### 報告事項

- ・毎月次事業報告

月末の定例会の時期に合わせて、事務局より月次報告書をメール配信し、毎月報告致しました。

その他、Newsletterにて四半期毎に財務面を含めた運営状況を報告し、必要な情報の共有化を行いました。

### 2. 協力医師よりの症例登録

- ・2025年度総数 494件：アレルギー性 423件、非アレルギー性 71件

各年の4月1日～翌年3月31日に登録された症例登録の集計結果です。

症例登録をいただく医療施設には、特定臨床研究(特定臨床研究「化粧品等のアレルギー確認方法確立に関する研究」(実施計画番号jRCTs041180105))に参加いただいております。

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
アレルギー性(件)	507	465	466	356	527	438	391	353	488	423
非アレルギー性(件)	194	99	108	94	66	56	34	36	79	71
総数(件)	701	564	574	450	593	494	425	389	567	494

### 3. 賛助会員企業の募集

- ・新規入会 4社、5口増 (退会1社、2口減)  
2025年度会員 賛助会員企業数=121社、会費口数=161口(ネイリスト協会を含む)

## 賛助会員企業数の変遷

	事業年度	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
	年度	2021	2022	2023	2024	2025
年度開始時	賛助会員数	112	112	115	112	116
	口数	151	151	155	152	155
年度終了時	賛助会員数	114	117	116	118	121
	口数	153	157	156	158	161

### ・勧誘状況

企業より問合せをいただいて対面や Web で説明する方法以外の経緯で入会や増口に繋がった場合が散見されました。

松永先生にご相談の申し入れがあり、ご相談後に入会または口数の増加

入会メリットを気にされていた OEM 企業が、成分の陽性情報の提供が有効と判断され、入会

### ・広報活動

広告の掲載

- ✓ 第 50 回日本化粧品学会要旨集に後付け 1/2 頁の広告を掲載しました。

学会発表・雑誌掲載・講演会等

#### ■ 学会発表

SSCI-Net に仲介依頼をいただき、NITE に分析依頼を行い、原因アレルゲンが究明された症例。皮膚科医の先生に共同演者に加えていただき、活動を紹介していただきました（敬称略）。

- ✓ 第 74 回 日本アレルギー学会学術大会、欠田成人（済生会松阪総合病院）ほか：「ロジン関連化合物とダンマル樹脂による、市販の油性マーカーペンによる接触皮膚炎症候群の 1 例」

#### ■ 講演会

- ✓ 日本化粧品工業会 2025 年度「化粧品安全性評価セミナー（初級）にて、SSCI-Net の紹介と成分パッチテストの推進について案内していただきました。（2025 年 6 月 16 日～6 月 29 日）
- ✓ 日本化粧品工業会 2025 年度「化粧品安全性評価セミナー（実践入門）にて、SSCI-Net の紹介と成分パッチテストの推進について案内していただきました。（2026 年 2 月 2 日～2 月 16 日）

#### ■ 医薬部外品・化粧品の安全性評価に活用するためのガイダンス文書

皮膚感作性の評価に使用可能な情報源として SSCI-Net の活用を推進するという記載が盛り込まれました。

「ディファインドアプローチによる皮膚感作性評価法を医薬部外品・化粧品の安全性評価に活用するためのガイドンスについて」

厚生労働省医薬局医薬品審査管理課長：医薬薬審発 0328 第2号

令和7年3月28日発出文書

#### 4. 業務改善実績

- ・システム改修について

- 1) 手袋の分類を整理し、過去に症例登録された製品を含めて再分類
- 2) 事務局用備考欄の入力字数の上限修正
- 3) 症例入力サイト：グローバルナビの表示名の変更（医師名→医療施設名）
- 4) 症例入力サイト：「入院あり」の選択についての説明を追加

- ・日本化粧品学会との連携

2024年4月より日本化粧品学会 安全性検討委員会に成分パッチテスト推進部会が設置され、成分パッチテスト用試料の調製条件を検討いただく仕組みが稼働致しました。2025年度は4件を依頼致しました。

#### 5. 情報発信活動

- ・Newsletterの発行

毎月10日（土日や休日の場合はその翌日）に発行し、延べ12回に亘り時宜に即した情報を関係者へ配信致しました。

皮膚科臨床医によるコラムは毎回好評で、化粧品等の製造販売企業においては、リアルな皮膚障害状況がわかるので楽しみにしているとの声が寄せられています。一方、理事長および理事の先生方の負担が大きいので、理事以外の皮膚科医や研究者にも寄稿を依頼し、読者に有益な情報を配信するよう心がけております。

2025年度シリーズ「SSCI-Net 症例登録から抽出された課題と取り組み」の原稿ご担当

松永理事長3回、矢上理事1回、伊藤理事1回

理事以外への依頼：

「ブリーチ剤の進化と拡大するニーズ・トレンド、技術、そして安全性を考える」

日本ヘアカラー工業会事務局長 矢野弘幸 様

「湿布薬・絆創膏に含有される水添ロジン酸グリセリンエステルによるアレルギー性接触皮膚炎のパッチテストから学んだこと」

はなみずきクリニック 飯島茂子 先生

「化粧品の安全性保証の変化と市販後情報収集の重要性、SSCI-Netへの期待」

山陽小野田市立山口東京理科大学 小島肇先生

「追悼 故 足立厚子先生を偲んで」

神戸市立西神戸医療センター 皮膚科 部長代行 鷲尾健 先生

・特定成分に関する皮膚障害症例発生件数の問合せ

2016年度より賛助会員へのサービスの一環として、賛助会員企業からの特定成分による陽性症例の問合せに対し、蓄積している陽性症例の概要情報を提供しております。本年度は、のべ73企業より243成分の問い合わせがありました(2024年度:75企業、167成分、2023年度:41企業、96成分)。毎年問合せ成分件数が多くなっていることから、この情報の有用性が認知され活用頻度も高まっていることを示していると思われれます。今後も皮膚科医による被疑製品の原因精査を支援し、情報の充実に努めたいと考えております。

6. 産学官連携活動

・化粧品等のアレルギー情報共有化推進連絡会

第25回および第26回連絡会を開催致しました。

1) 第25回連絡会

2025年6月25日(水)に第25回化粧品等のアレルギー情報共有化推進連絡会をオンラインで開催致しました。42名にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。会議の議事は、SSCI-Netより「2024年度に登録された症例の概要(中間報告)および活動における課題」として「概要とトピックス(化粧品)」について松永理事長より、「概要とトピックス(医薬品・医療機器)」について伊藤理事より、「概要とトピックス(家庭用品・その他)」について矢上理事より報告致しました。国立医薬品食品衛生研究所(以下、国立衛研)生活衛生化学部第四室(室長)河上先生からは「令和6年度に実施したインターネット試買調査について」を報告いただきました。また、独立行政法人製品評価技術基盤機構(以下、NITE)(フェロー)佐々木 和実先生および川崎 裕之様(製品安全センター所長)からは、「NITEにおける皮膚障害関連業務について」、業務は継続する旨の案内がありました。これを受けて、理事長および理事の先生方から、感謝のコメントが寄せられました。

2) 第26回連絡会

2026年1月22日(木)に第26回化粧品等のアレルギー情報共有化推進連絡会を開催致しました。対面会議とオンライン会議のハイブリッド形式で開催し、対面会議は6年ぶりとなりました。現地参加(ビジョンセンター東京駅前)21名、オンライン参加19名、合計40名の皆さまにご参加いただきました。会議の議事は、SSCI-Netより「2024年度に登録された症例の概要(最終報告)および活動

における課題」として「概要とトピックス（化粧品）」について松永理事長より、「概要とトピックス（医薬品・医療機器）」について伊藤理事より、「概要とトピックス（家庭用品・その他）」について矢上理事より報告致しました  
また、国立衛研生活衛生化学部第四室 室長 河上 強志先生より、「家庭用品等に含まれる感作性物質の実態調査 -防腐剤-」の報告がありました。  
以上のように、産官学でアレルギー性皮膚障害の重要な情報共有および議論が行われました。

- ・厚生労働省への家庭用品に係る症例情報の提供（受託事業）

家庭用品に係る症例の登録状況について、毎月 14 日までに厚生労働省（以下、厚労省）化学物質安全対策室（化対室）に報告致しました。2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）の登録は 70 件でした。2024 年度に関しては、「2024 年度 家庭用品に係る健康被害の年次とりまとめ報告」が以下の URL にて公開されています。（次頁の表を参照）<https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/001613798.pdf>  
SSCI-Net にご登録いただいた家庭用品に関する皮膚障害症例は、2024 年度 64 件に続き、2025 年度も多く症例をご登録いただきました。大変有難いと感じております。先生方のご登録のサポートと致しまして、アクセサリーなどの金属製品のニッケル含有の有無を確認できるニッケルスロットテスター（SmartPractice 社製）を、2025 年度は 4 施設に送付致しました。今後も、厚労省に家庭用品による皮膚障害症例の現状を知っていただくために、皮膚科医への呼びかけ等を行い、症例登録を促す活動を定期的に行っていく予定です。

家庭用品による皮膚障害の報告件数

(参考) 2023 年度		2024 年度	
家庭用品	件数	家庭用品	件数
ピアス	4	ネックレス	10
靴	2	指輪	9
ネックレス	1	ピアス (金属)	6
ビューラー	1	腕時計	6
腕時計	1	眼鏡 (先セルを含む)	4
眼鏡 (先セルを含む)	1	衣類	4
冷却剤	1	イヤリング	3
ヘアピン	1	ベルト	3
ネイルチップ	1	家庭用手袋 (ゴム) ※1	3
メダルコイン	1	ビューラー	2
アクセサリ-製作用レジン材料	1	家庭用手袋 (非ゴム) ※2	1
総数	15	ボウリング用手袋	1
		ピアス (非金属)	1
		靴 (サンダルを含む)	1
		保冷剤	1
		楽器	1
		化粧用パフ	1
		バランスボール	1
		耳掛けイヤホン	1
		マイク	1
		ストッキング	1
		サスペンダー	1
		剃刀	1
		トイレットペーパー	1
		総数	64

※1 天然ゴム 2 件、合成ゴム 1 件

※2 塩化ビニル以外 1 件

- ・香料アレルギー研究班への日本人における香料アレルギーによる皮膚障害状況の提供 (受託事業)

「厚労科研 (R6-8 年度) 化粧品等に含まれる香料アレルギー成分等への対応に資する研究 (香料アレルギー研究班): 研究代表 国立衛研・生活衛生化学部・内山奈穂子」において、日本人における香料アレルギーによる皮膚障害状況の情報提供の依頼を受け、以下

の情報提供を行いました。

- ✓ 化粧品等のアレルギー性接触皮膚炎のうち香料アレルゲンによると考えられる症例情報

化粧品等のアレルギー性接触皮膚炎のうち香料が原因となった症例は少なく、原因となった香料成分の特定も難しいのが現状です。SSCI-Net では、化粧品等のアレルギー性接触皮膚炎の症例で、JBS の香料ミックスが陽性になった場合には、香料ミックスに含まれる成分が製品の香料に含まれているか、可能な範囲で確認を行って、情報の精度の向上に努めています。なお、本厚労科研は3年間の予定です。

## 7. 学術活動

- ・ SSCI-Net で収集された症例情報等の研究成果の関係学会発表および雑誌投稿

### ■ 学会発表

- ✓ 第50回日本化粧品学会、矢上晶子（一般社団法人 SSCI-Net、藤田医科大学医学部総合アレルギー科）ほか：「SSCI-Net 症例情報から見えてきた化粧品の皮膚安全性(2025)」
- ✓ 第55回日本皮膚免疫アレルギー学会、松永佳世子（刈谷整形外科病院/藤田医科大学/SSCI-Net）ほか：「SSCI-Net 2024 年度アレルギー性皮膚障害例のまとめ」
- ✓ 第55回日本皮膚免疫アレルギー学会、欠田成人（済生会松阪総合病院 皮膚科）ほか：「3 種類の異なる湿布薬に配合されたサリチル酸グリコールによるアレルギー性接触皮膚炎の2例」
- ✓ 第55回日本皮膚免疫アレルギー学会、松倉節子（丸子中央病院）ほか：「リップクリームに含まれる Dipropylene glycol (DPG) による接触皮膚炎の1例」
- ✓ 第55回日本皮膚免疫アレルギー学会、飯島茂子（はなみずきクリニック）ほか：「腕時計のレザーバンドに含有される p-tert-ブチルフェノール-ホルムアルデヒド樹脂によるアレルギー性接触皮膚炎の1例」
- ✓ 第124回日本皮膚科学会、二村恭子（藤田医科大学ばんだね病院総合アレルギー科）ほか：「ビニルピロリドン感作による接触蕁麻疹症候群の一例」

### ■ 雑誌投稿

- ✓ Iijima S. et al., Concomitant Reactions Among Rosin- Related Compounds in Five Cases of Allergic Contact Dermatitis Caused by Glyceril Hydrogenated Rosinate, *Contact Dermatitis*, 92(6), 2025.
- ✓ Iijima S. et al., Occupational Allergic Contact Dermatitis Caused by Mercaptobenzothiazole in DS2 Dust Mask Straps During the COVID-19 Pandemic: A Study of Outbreak and Proposal of Safer Alternatives,

## 8. 臨床支援活動

アレルギー性接触皮膚炎等の原因成分の究明を目的として、皮膚科医からの仲介依頼を積極的に受けております。2022年度より毎年約60件の臨床支援の相談をいただいております。その内訳は①化粧品・医薬品の原因精査を目的とする成分パッチテストの実施支援、②家庭用品の原因精査を目的とする分析依頼（NITE）、③医療機器等の原因精査を目的とする分析依頼（国立衛研）です。化粧品・医薬品等の成分パッチテスト支援では、毎年賛助企業をはじめとする多くの企業にご協力いただいております。成分パッチテスト用試料の調製条件につきましては、2024年度より日本香粧品学会に成分パッチテスト推進部会を立ち上げていただき、組織的なサポートがいただける体制となりました。一方、2025年度は成分提供にご協力いただけない場合も増えており、その多くは海外製造製品でした。製造販売元からの成分入手の限界があり、それ以外の方法によるアレルゲン入手も必要と考えられます。

②につきまして、2025年度もNITEによる皮膚障害症例の原因究明のための分析業務を継続していただき、8件仲介致しました。③につきまして、5件ご対応いただいております。

成分パッチテストなど原因精査を目的とした臨床支援を通じて皮膚科医の間でSSCI-Netの認知性が高まっていることを感じております。成分パッチテストによって、原因究明につながれば、賛助会員企業への情報提供を通じ、安全な製品開発につなげることができると考えられます。このような側面も含めて、積極的に原因成分を特定すべく臨床支援を推進してまいります。

### 仲介実績

行ラベル	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
成分提供可	30	42	40	49	25	186
試料提供可	1	1		1	8	11
分析承諾	4	4	6	6	13	33
成分提供不可	4	18	10	6	24	62
その他		1	5	6	5	17
合計	39	66	61	68	75	309

## 9. SSCI-Net 関係者内に限定した医療施設紹介

本年度は、医療施設の紹介希望はありませんでした。企業にとっては安心材料となる支援と考えておりますので、認知性を上げるべく今年度もニュースレターによる紹介をしていきたいと思っております。

## 10. 症例登録促進活動

SSCI-Net の活動として、「臨床医による皮膚健康障害症例報告の収集」を第一に掲げておりますが、症例登録は皮膚科医によるボランティアで支えられています。本年も症例登録および JBS の結果登録数が多かった最上位 10 医療施設に、フィンチャンバー1箱ずつお贈り致しました。

フィンチャンバー 50×5 チャンバーPP 1箱  
<チャンバー>アルミニウム/ポリプロピレン (内径 8mm)

## 11. 役員人事

### 役員人事に関する調整

- ・2025 年度定時社員総会において以下の理事 9 名の任期が満了となるため、重任を依頼し、全ての理事が重任に内諾いただきました。

#### <重任>

松永 佳世子	藤田医科大学名誉教授、医療法人大朋会 刈谷整形外科病院 副院長
矢上 晶子	藤田医科大学医学部 総合アレルギー科 教授
伊藤 明子	ながたクリニック 副院長、新潟大学大学院皮膚科学分野 特任准教授、藤田医科大学医学部総合アレルギー科 客員教授
山口 由衣	横浜市立大学大学院医学研究科 環境免疫病態皮膚科学 教授： 日本皮膚科学会 理事
江藤 隆史	あたご皮フ科 副院長：日本臨床皮膚科医会 会長
佐藤 隆	東京薬科大学薬学部 教授：日本化粧品学会推薦
山本 順二	日本化粧品工業会 専務執行理事
原 和宏	日本ヘアカラー工業会安全性・情報委員長
杉山 真理子	一般社団法人 SSCI-Net 事務局長